



## 総合診療科の専攻医として

国家公務員共済組合連合会 吉島病院 増岡 駿人

国家公務員共済組合連合会 吉島病院 総合診療科レジデントの増岡駿人と申します。私は小中高と広島大学附属の広島育ちで、大学は久留米大学出身です。2020年に卒業し、COVID-19が流行する時代に初期研修を中国労災病院で経験しました。昨年度は安佐市民病院で総合診療科のレジデントとして1年間いろいろな経験を積ませていただきました。本年度から吉島病院に赴任し、当院の専攻医が私のみでしたので現在筆を取らせていただいている次第です。趣味はゴルフで、<sup>たしな</sup>嗜む程度の実力ですが、第40回広島市医師会ゴルフ大会でニアピンを運良く取ることができたのが、最近のちょっとした自慢です。「専攻医の主張」ということで、テーマは自由とのことですが、この手の原稿を書くのはとても苦手でつまらない話が続くと思いますので、このコーナーを楽しみにしている諸兄姉にはあらかじめ謝罪しておきます。タイトルのテーマで書かせていただいているのですが、以下の駄文なので読まないことをオススメします。

総合診療科を選んだ大きな理由は、患者一人ひとりに対する包括的なケアを提供できることにあります。特定の疾患に焦点を当てることなく、幅広い症例に対応することが求められる中で、私は患者と向き合い、その人生のあらゆる局面でサポートできる医師になりたいと考えました。様々な年齢層や疾患にわたる患者と深くかわり、総合的な診療を通じて地域社会における健康の向上に寄与できる環境を提供していきたいと思いました。

また、高齢化が進むなかで慢性疾患や生活習慣病の増加が顕著です。これに伴い、患者の健

康を総合的かつ継続的にサポートすることがより一層重要になっています。健康促進から疾患管理、患者とのコミュニケーションを通じて生活全般にわたるケアを提供することで、地域住民の健康な生活を支える存在になりたいと考えています。

総合診療医としての役割は、単なる病気の治療だけではなく、予防、教育、サポートなど、多岐にわたると思います。「包括的統合アプローチ」や「一般的な健康問題に対応する診療能力」「患者中心の医療・ケア」「連携重視のマネジメント」「地域包括ケアを含む地域志向アプローチ」「公益に資する職業規範」「多様な診療の場に対応する能力」総合診療科ではこれらの側面に焦点を当て、患者の生活全体を視野に入れた診療が行われています。その結果、患者さんとの信頼関係が築かれ、患者が自身の健康に積極的に関わる姿勢が促進され、健康な地域社会の構築には、こうした個別の患者との連携が不可欠であり、それが総合診療科の存在意義であると考えます。総合診療科として、他の専門職との連携を深め、病態の専門的な知識を持つ同僚たちと協力しながら、患者に最適な医療を提供できる環境を整えていきたいです。

以上、中盤の約700字はChatGPTが書いたものに総合診療科の7つのコンピテンシーを加えてちょっと校正しました。AIの技術は面白くて、今後さまざまな所で活用されていくのが楽しみです。いろいろなことへの<sup>そんたく</sup>付度でチャットAIが出てきたときより無難なことしか言わなくなっているのが少し残念かなと思っていたりします。